

米国企業2021年10-12月期決算の動向

不確実性がある中でも増収増益基調を継続

2022年2月22日

お伝えしたいポイント

- 米国企業の業績は堅調に推移
- コンセンサス対比で上振れ優勢も、一部でコスト増の影響が見られる
- GAFAM銘柄は一部を除き、引き続き成長株としての特性を維持
- 2022年も市場は着実な増益を予想

米国企業の業績は堅調に推移

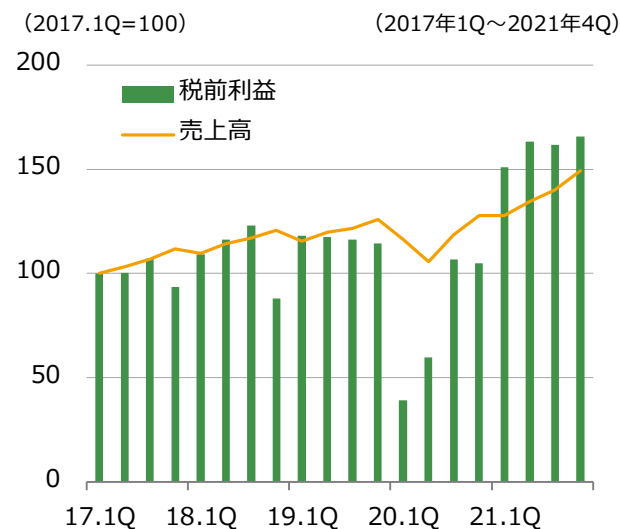
S&P500構成銘柄の2021年10-12月期決算は、2月17日までに8割超の銘柄が決算発表を終えました。当社の集計によると、直近四半期業績は売上高が前年同期比15.9%増、税前利益は同78.3%増と好調でした。税前利益は前年同期がコロナ禍からの業績回復途上だったことなどもあり、伸び率が高くなっています。

米国株式市場は今年に入り、金融引き締め懸念やウクライナ情勢への懸念により不安定な推移が続いています。しかし、これら懸念材料が後退する局面が訪れた際、株価に反発力があるかを考える上で、業績動向は重要です。

今回の米国企業決算のポイントは、①実績は増収増益継続としっかりとした内容、②コンセンサス対比では一部でコスト増の影響、③大手グロース株の一角は業績鈍化も多くの銘柄は高い伸び率を維持、④2022年も力強い業績拡大を市場は予想、などであると考えます。

株式市場の関心が再び業績動向に向かうためには、米国の金融引き締めのペースが明確になり悪材料出尽くし感が強まることや、ウクライナ情勢の落としどころが市場で認識されることなどが必要でしょう。このため、企業業績が株価上昇の原動力となる業績相場への回帰には今しばらく時間がかかると予想されますが、今回の決算を踏まえると、業績相場に回帰した際には、米国株式市場は十分な反発力、回復力を有していると想定されます。

S&P500構成銘柄の業績動向



※対象は2022年1月時点のS&P500構成銘柄のうち、11月・12月が決算期末かつ2016.1Qから業績開示のある銘柄
※直近四半期は2022年2月17日時点

(出所) リフィニティブより大和アセット作成

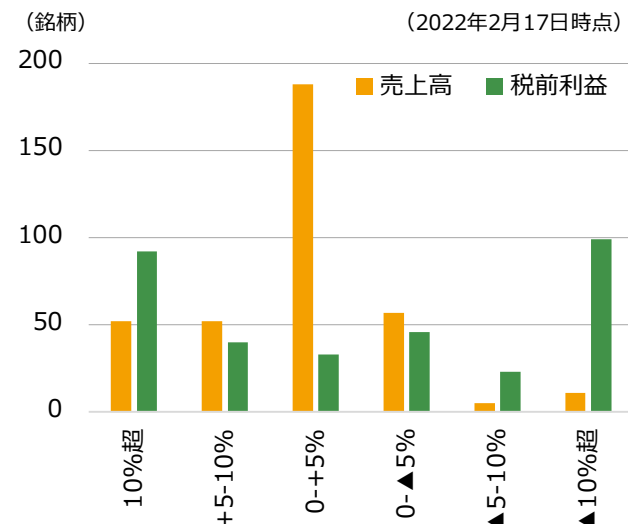
コンセンサス対比で上振れ優勢も、一部でコスト増の影響が見られる

右図は2021年10-12月期決算の実績と事前のコンセンサス予想との対比の銘柄分布状況です。売上高は全体の約8割の銘柄が事前予想を上回っており、力強さが感じられます。

一方、税前利益を見ると、売上高と同様に上振れている銘柄が多いものの、売上高の上振れ比率に比べて、税前利益の上振れ比率は劣っています。セクター別では素材や資本財などにおいて税前利益の下振れ比率が高くなっています。資源価格高など、コスト増の影響を受けたとみられます。

しかし、エネルギーや小売り、情報技術、電気通信サービスなどは税前利益の上振れ比率が高く、セクター毎に強弱感が分かれる内容となりました。

2021年10-12月期決算の対コンセンサス比



※対象はS&P500構成銘柄のうち、12月が本決算・四半期決算の銘柄
 ※税前利益における赤字転落/赤字拡大、赤字縮小/黒字転換の銘柄は除外

(出所) リフィニティブより大和アセット作成

収益性に目立った低下は見られず

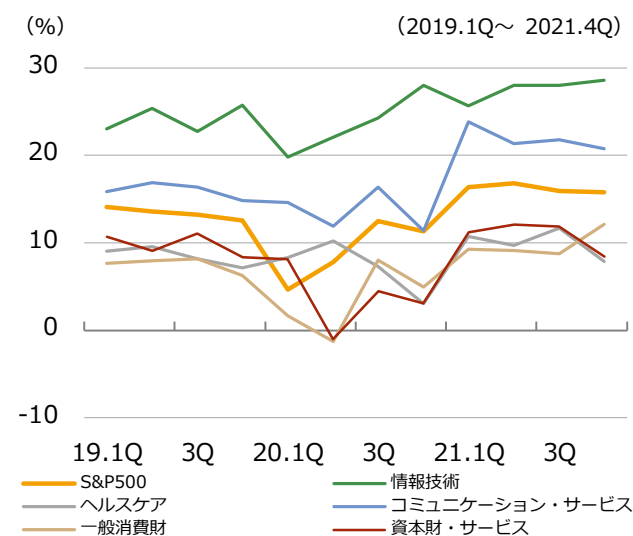
コスト増の影響が見られるとはいえ、S&P500構成銘柄の収益性が大きく低下している訳ではありません。

S&P500全体の税前利益率は、コロナ禍の2020年に一時的に低下しましたが、既に回復しており、直近四半期もほぼ前四半期並みとなりました。現在の利益率はコロナ禍前の2019年を上回っています。

主要セクターの税前利益率を見ると、情報技術やコミュニケーションサービスは前四半期並みで高い利益率を維持しています。ヘルスケアや資本財・サービスは前四半期と比べ利益率は低下したものの、2019年並みの利益率となっています。

今後も資源価格や人件費上昇などによるコスト増が企業業績に与える影響には注意が必要ですが、足元で米国企業の収益性に大きな懸念が生じているということはありません。

S&P500の主なセクターの税前利益率の推移



※対象は2022年1月時点のS&P500構成銘柄のうち、11月・12月が決算期末かつ2016.1Qから業績開示のある銘柄
 ※直近四半期は2022年2月17日時点

(出所) リフィニティブより大和アセット作成

GAFAM銘柄は一部を除き、引き続き成長株としての特性を維持

今回の決算発表では、米国株の象徴的な銘柄であるGAFAM(*)の一角であるメタ・プラットフォームズ(旧フェイスブック)の失望決算と、その後の株価急落が注目されました。

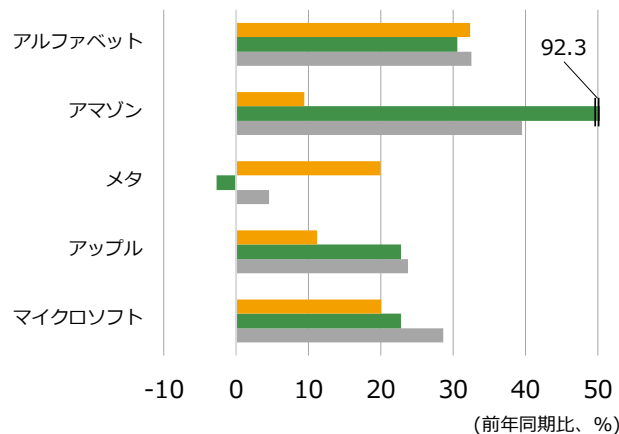
しかし、メタ以外のGAFAM銘柄の業績を見ると、2桁の増収増益と高い成長率を継続しました。マイクロソフトのサーバー・クラウド製品売上など、各社の成長を牽引することが期待される事業の伸び率は、軒並み前年同期比20%を超える伸び率となっています。

メタを除くGAFAM銘柄は、成長株としてのその特性を維持していることが確認される決算であったと思われます。

*GAFAM

G: グーグル(社名: アルファベット)、A: アマゾン
F: フェイスブック(同: メタ・プラットフォームズ)
A: アップル、M: マイクロソフト

GAFAM銘柄の直近四半期業績概要



■ 売上高 ■ 税前利益 ■ 注目事業の計数
※注目事業の計数は次の通り。アルファベット: グーグル広告収入、アマゾン: クラウド事業売上、メタ・プラットフォームズ: フェイスブックアクティブユーザー数、アップル: サービス売上、マイクロソフト: クラウド製品売上
(出所) リフィニティブ、会社資料より大和アセット作成

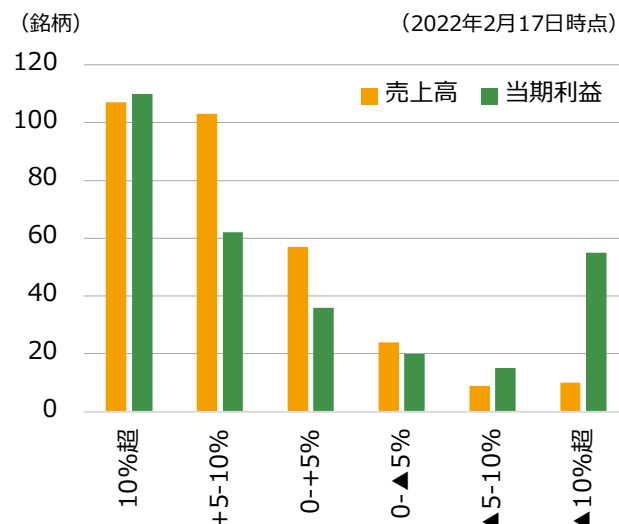
2022年も市場は着実な増益を予想

2022年のS&P500の業績予想(市場コンセンサス)をみると、1月は上方修正が継続していましたが、2月上旬は小幅に下方修正されました。直近決算発表で確認されたコスト増の影響が反映されたとみられます。

しかし、直近の2022年業績予想の前年比伸び率の分布は右図の通りであり、銘柄数ベースで全体の7割近くが増益予想、3分の1強は10%を超える増益予想となっており、業績拡大期待は健在です。

2022年はコスト増や金融引き締めが経済に与える影響などに注意が必要ですが、米国企業の強さを損なうほどではなく、業績全体としては着実な増益基調が継続すると予想します。

2022年業績の市場コンセンサス予想の概要



※対象はS&P500構成銘柄のうち、12月が本決算・四半期決算の銘柄

(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。